

豆と藁と炭

島袋 亀次郎 (1895・M28) 字座喜味 (03 : 59)

うんかし わん がっこう しんしーたー ち
昔、私ねーくれー、学校ぬ先生達から聞
はじ
やる筈やんどー。

さんぬい い どうし をっ
三名ぬいっペー良い友達ぐわーが居たんでい。う
さんぬい どうし ちゆい まめ
ぬ三名ぬ友達ぐわーでいしえー、一人や豆ジョー、
また藁ペー、炭ペー、うぬ三人居たんでい。

まめ
豆ジョーでいしえー、今、くまぬ言る空豆やし
が。うぬ空豆ぬ口ぬ真つ黒なとーしえー、如何
ちむえー とーまーみー くち くるー
ぬ意味合し、うぬ空豆ぬ口え黒やがやー。くり
から始まいしが、うり黒なたる理由やしが。

ある時、うぬ三人ぬ仲良し友達んちゃーや、互に
あつ さんぼ じふいわた
歩ちやがちー、散歩さがちー、是非渡らんとーならん
かーら かわた
川はっちやかてい。うぬ川から渡りわるないしが
な一、渡らんね一何処んかに歩ちゆる所お無らん。

あんと、藁ペーやな一長え長はと、とー、い
やーや其処んから、くぬ端からあぬ端んかい横たわ
いね一、彼処着ちゆる筈やぐと。いやー上から歩
わた そうだのー
ちやーに渡らな、かんし相談しつ。「いー、あんす
ん。よろしい」んでいやーに。「とーあんしえー、私
ね一橋ないの意味合やさやー。とー私がな一あま
かい、彼処んかい橋架きーんどー」、くぬ藁ペーが言
はし か はし か
やーに、橋え架きてい。「とー、橋え架かとーさ、歩
たー あつ はじ
け一、誰から歩ちゆが」、くりが始まるばー。

「私から先ないみ」「一人な一歩かりーる、う
ぬ二人な一んちゃ歩からん」。。また、うぬ藁ペー
がむ かな ちゆい
一持つちゆーさんでいやーに、必じ一人な一、
ちゆい まめ
一人な一るない。あんとうな一、豆ジョーや、「ん
だ、私から先なら」でい言ちやしが。炭ペーや欲お
ちゆー
強さぬ、「ぬーいぬ一、私から先ない。いやーや
わん さち
私やか一先なて一ならん」、あんさーいくぬ炭ペー
がさち うん すみ
が先なてい出じたん。あんと、うぬ炭ペーや少え
くる わっ むん
心お悪さる者やてーんてー。

【共通語訳】

昔、この話は学校で先生から聞いたと思うよ。

ある所に、とても仲の良い三人の友達がいたそうだ。
その友達というのは、豆ぞう、藁ペー、炭ペーの三人
だったって。

豆ぞうというのは、今でいうそら豆のことね。その
そら豆の口が黒くなっているのは、どうしてかという
ことだがね。これから私が話すのが、そのそら豆の口
がなぜ黒くなったかということなんだよ。

ある時、その三人の仲良し友達が、一緒に散歩しな
がら歩いていると、途中で川にさしかかった。その川
を渡らないことにはどこにも道がなかった。

そこで、藁ペーは長さがあるので、「さあ、君がそこ
の端から向こうの端まで横たわれれば、向こう岸に届く
はずだからね。君の上から歩いて渡ろう」と、三人は
相談をした。「うん、そうしよう」と言って、「それな
ら、私が橋になるわけだね。私が横になって向こう岸
まで橋を架けるよ」と、藁ペーが橋となった。「さあ、
橋は架かっているよ。歩きなさい、誰から先に渡ると
か」と始まったわけだ。

「私から先に渡ろうか」「一人ずつしか渡れない、
二人一緒には渡れないよ」、藁ペーの橋では二人一緒
に渡るのは無理だから、一人ずつしか行けないという
ことだった。それで、豆ぞうは、「それなら、私が先に
行こう」と言ったが、炭ペーは欲深くて、「駄目だ、私
が先に行く。君が私より先になってはいけない」と、
炭ペーが先に渡って行った。炭ペーは少し心根が悪か
ったんでしようね。

あー、うりがな^{さち}先^{すみ}なていさぐとう、うぬ炭^{むの}ベーで
いる者^{どうー}お、自分^{ちび}ぬ尻^{まー}んかい、何^い処^いがらんかい、うれ
ー炭^{しみ}るやぐとう、火^{ふいー}ぐわーぬ少^{いふ}え点^ちちよーてーぎさ
るふーじ。火^{ふいー}ぐわーぬ点^ちちよーてーぎさるふーじな
ていさぐとう。うぬ藁^{わら}ベーからかんし渡^{わた}てい行^いちゆ
んでい、とうとう途^{とちゆう}中^ま、真^なん中^{なちよー}来^{じぶん}る時^い分に、なーう
ぬ火^{ふいー}ぐわー大^まぎくなやーに、藁^{わら}ベーとう摩^{まさつ}擦^つさーに、
藁^{わら}ベーやなー炭^{たん}ベーんかい焼^やかったるばー。焼^やかつ
たぐとう、なー今^{くんど}度^お、なー仕^{しかたー}方^{こー}ならん壊^こりてい、
川^{かーら}んかい二^{たい}人^{なが}ぐーな流^{なが}さってい。藁^{わら}ベーやまた燃^{めー}
さってい居^{をうー}らんばー。かんやたんでいさ。

あんやとう、うぬ豆^{まめ}ジョーや、「二^{たい}人^{ともだち}が友^{とも}達^{だち}えなー、
こいう川^{かーら}んかい流^{なが}さってい。くれー私^{わん}ねー、私^{わん}
ー人生^{ちゆい}ちよーていなー、くれー大^{たい}変^{いん}なことになっ
たねー」と言^いって、非^ひ常^{じょう}に哀^{あわ}りっし、ワアーないワ
アーない泣^なち。ちゃっぴ泣^なちやさぐとう。じこー泣^なち、
うぬ口^{くち}えなーちゃっぴん開^あちやぐとう、今^{くんど}度^お口^{くち}え
い^いか^かく^く如何^いな閉^くらんらんなやーに。

閉^くらんらんなたぐとう、其^{うんま}処^{じよがくせい}からまた、女^{じよがくせい}学^{せい}生^{せい}
一人^{ちゆい}や歩^{あつ}ちゆたんでいしが。うりが、「何^ぬが、いやー
やあんしえー、いやー口^{くち}え閉^くらんらんなありー」でい
ちやぐとう。「なー。ちゃっぴん泣^なちゆんでいうりし
ちやぐとう口^{くち}え閉^くらんらんな、かんたとーんれー姉^{ねえ}さん。
どうにか治^{のー}ち呉^くらんらんな姉^{ねえ}さん」でい言^いちやぐとう。
「とーあんしえー、いやー口^{くち}え閉^くいるないさに」でい
言^いちやーに、針^{はり}と木^も綿^{めん}糸^{いと}を出^だして、うぬ豆^{まめ}ジョーぬ口^{くち}
え、うりが黒^{くろい}糸^{ちゆー}さーに縫^のていとうらちゃんてい。

とーあんさ、うぬちゃっぴん割^わりとーる口^{くち}え、な
ー黒^{くろい}糸^{ちゆー}さーに縫^のていさぐとう、うぬ空^{とーまーみー}豆^{くち}ぬ口^{くち}え、
うりが治^{のー}ちや黒^{くろい}なてい、世^ゆぬ中^{なか}から生^{せい}存^{そん}し行^いちゆ
んでいんでー。

とー、うれーい^わった分^わからんてーるむんやれー、
とーまーみー 空^{くち}豆^{くろい}ぬ口^{くち}黒^{くろい}なとーしえーあんしやんでいさ。
これもおとぎ^{ばなし}話^わ。

そしたら、先^{さき}に行^いった炭^{すす}ベーのお尻^{しつぽん}か、体^{てい}の一部^{いちぶ}に
燃^もえかすが少^{すく}し付^ついていたんでしょね。炭^{すす}なんだから、火^ひが少^{すく}し残^{のこ}っていたんだね。炭^{すす}ベーが渡^{わた}って行く
途中^{ちゆうちゆう}、真^まん中^{ちゆう}まで来^きると藁^{わら}ベーと擦^こり合^あって火^ひが大き^{おほ}
くなり、藁^{わら}ベーは炭^{すす}ベーに焼^やかれてしまった。それで、
藁^{わら}ベーの橋^{はし}は壊^これ二人^{ふたり}とも川^{かわ}に流^{なが}されてしまった。藁^{わら}
ベーは燃^もやされてしまったということさ。

そしたら、豆^{まめ}ぞうは、「二^{ふたり}人の友^{とも}達^{だち}が川^{かわ}に流^{なが}されて
しまった。私^{わたし}一人^{ひとり}だけ生^いき残^{のこ}ってしまっ、大^{おほ}変^{へん}なこと
になった」と言^いって、ひどく悲^{かな}しんでワアア泣^ないた。
大き^{おほ}く口^{くち}を開^あけてワアア泣^ないたもんだから、
今^{いま}度は口^{くち}が開^あきっぱなしでどうしても閉^しじることが
できなくなってしまった。

すると、口^{くち}が開^あいたままの豆^{まめ}ぞうの近^{ちか}くから、一人^{ひとり}
の女^め学^{がく}生^{せい}が通^とりがかっただって。その女^め学^{がく}生^{せい}が、「ど
うしたの、口^{くち}を開^あじることができないの」と聞^きいてき
た。「もう、大^{おほ}声^{こゑ}で泣^ないてしまつたら、口^{くち}を閉^しじること
ができなくなつたんですよ、お姉^{あね}さん。どうにか私の
口^{くち}を治^{なお}してください」と言^いった。「それじゃ、君^{きみ}の口^{くち}を
閉^しじてあげましよう」と言^いって、木^き綿^{めん}糸^{いと}と針^{はり}を出^だして、
豆^{まめ}ぞうの口^{くち}を黒^{くろ}い糸^{いと}で縫^ぬってくれたんだって。

そうして、とても大き^{おほ}く開^あいていた口^{くち}を、黒^{くろ}い糸^{いと}で
縫^ぬつたものだから、そら豆^{まめ}の口^{くち}は黒^{くろ}くなつてしまつた
ということさ。

そういうことでそら豆^{まめ}の口^{くち}は黒^{くろ}くなつたんだって
さ。君^{きみ}たちはそれを知らなかつたでしょう。これはお
とぎ話^わね。